町の歴史　連載三百五十二回

町の年代記 第54回

細谷清吉（歴史研究家）

石打合戦

邑楽郡誌の高島村の部に寺院として「福寿山普門院光明寺」があり、その中に本寺は石打村字家間にあり。僧慶海開基、年月不詳。本堂、方二間。境内五百三十一坪。境内に薬師堂あり。境内の北部に二ヶ所の塚あり。一は高さ三丈余、一は高さ二丈四尺、中腹に少しく穴あり。今を去る六十年前発掘の跡にして、武器類を出しきといふ。

その次に石打合戦のことが出ています。「天正年中、小泉城主富岡秀高、佐野足利の輩と合戦の時、首級を埋葬したるものにして、首塚、あるいは貝吹塚と云ふ」と簡単に出ています。この石打合戦について中世の大泉町には、詳しく出ています。

天正十一年二月二十四日夜、小泉城攻略のため、大挙して攻め寄せる佐野勢を途中の石打に迎え撃つ小泉勢との間に激しい合戦がありました。小泉城では、城主富岡秀高の嫡子新三郎と秀長が三百余騎を率いて、日没を待って出撃しました。小泉と石打境に簀子橋をかけて石打へ渡り、兵を二手に分けて、主力を大根村前に伏せ、別軍を藤川城に入れました。

その夜、佐野の大貫伊勢守は小曽根の養法寺や胤覚寺などの古寺に火をかけて篝火とし、さらに進んで石打地内の正田寺山に火を放ちました。佐野勢は明朝の小泉城攻撃を計って光明寺付近に集結しました。そこへ小泉勢が横合いから二手に分かれて一斉に攻めかけました。急をつかれた大将大貫伊勢守を討ち取り数十人を死傷させる勇戦ぶりでした。敗れて敗走する佐野勢を藤川に追撃して、多数の兵馬や武器を獲得しました。

小泉城の対馬入道秀高は佐野勢撃退の状況を報告する注進状を小田原の北条氏直に送りました（その書状は中世の大泉町参照）。この石打合戦を物語る簀子橋・首塚・正伝寺山などは今も残っています。遠藤家の文書によると「佐野勢来襲の夜、小泉勢が攻め寄せ、大根村前より出会い合戦。この時、石打へ簀子橋（竹などで編んだ橋）をかけしにより、今もその名を残す」とあります。そのころは一帯の水沢地で、八重笠を通るのが普通でした。佐野勢は予測しなかったわけです。

現在の光明寺

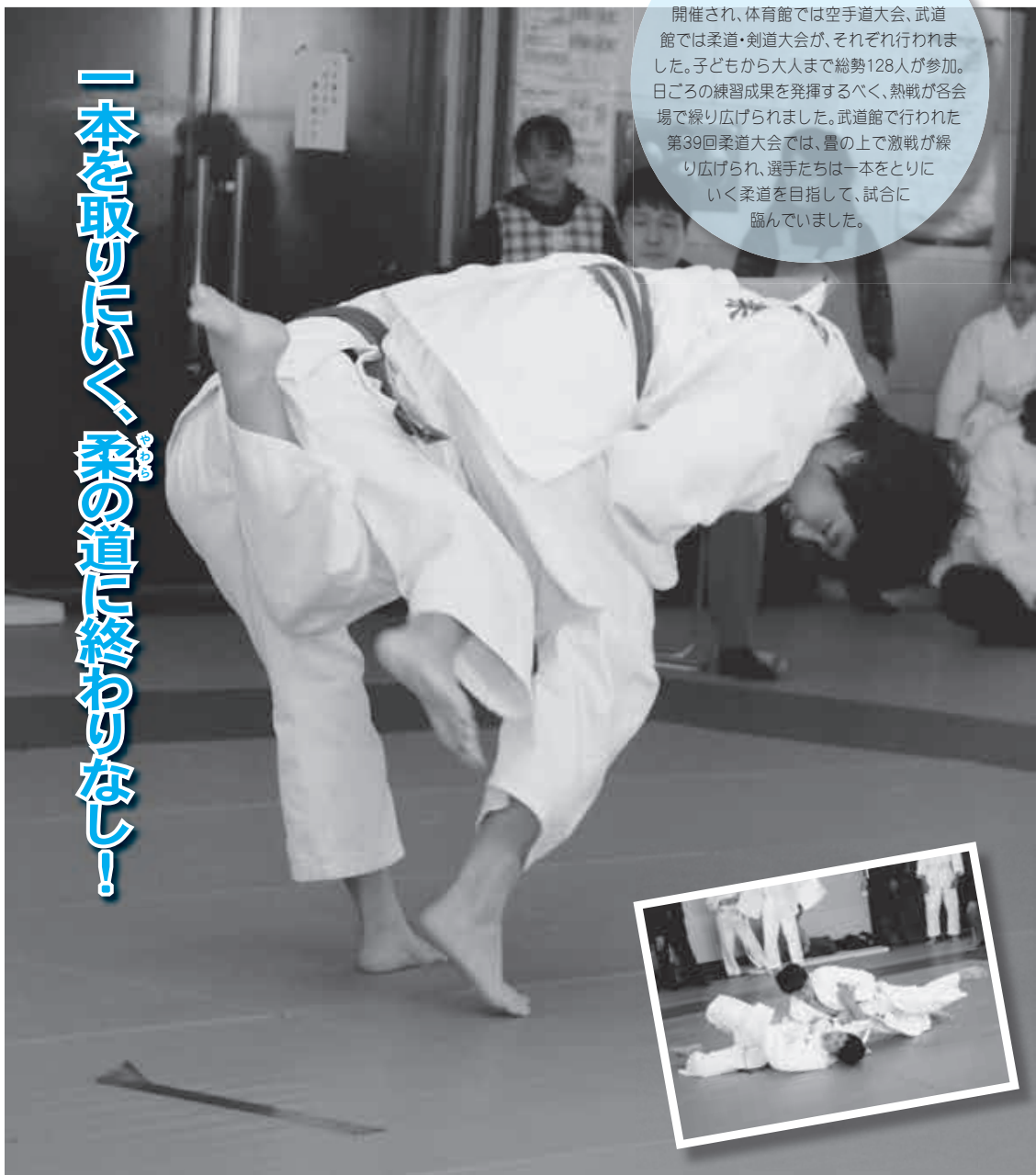
フォトパレット

皆さんの身近で起きた出来事や楽しい話題、イベントなどの情報を「広報おうら」編集部まで、お気軽にお寄せください。☎47-5007

町のさまざまな話題を カメラでおいかけます。

PHOTO PALETTE

一本を取りにいく、柔の道に終わりなし！



1月30日、町民体育館と武道館で、第11回邑楽町武道大会が開催され、体育館では空手道大会、武道館では柔道・剣道大会が、それぞれ行われました。子どもから大人まで総勢128人が参加。日ごろの練習成果を発揮するべく、熱戦が各会場で繰り広げられました。武道館で行われた第39回柔道大会では、畳の上で激戦が繰り広げられ、選手たちは一本をとりにいく柔道を目指して、試合に臨んでいました。

ふるさとの味を伝えたい

２月８日、邑楽町公民館で生活研究グループ連絡協議会が、「食の伝承」交流会を開催しました。７つのグループが地元食材を使い郷土の味を披露。会長の島田幸枝さん（秋妻・17区）は、「若い人たちにも、ぜひ会員になってもらい、郷土の味を伝承してほしいですね」と話してくれました。

フォーマルな装いにどうぞ

１月28日、邑楽町公民館でシルクコサージュ作り講座が行われました。この日は、フォーマルなコサージュを製作。渡辺陽子さん（新中野・33区）は、「初めて作りましたが、思っていたより難しかったです。これから卒園式や入学式があるので、ぜひ付けていきたいです」と話していました。

ダイエットに有効かも…

２月９日、ヤングプラザで青年骨盤ストレッチでダイエット講座が行われました。このストレッチは、ふだんの生活習慣でゆがんだ骨盤を、正常な位置に戻すというもの。小林美穂さん（大泉町）は、「ストレッチで足がつりそうになりましたが、家でも試してみたいです」と話していました。